

健全化判断比率は良好

ギカイの視点

質疑 監査委員の報告によると、財政運営を注意深く見守っていく必要があるとされている。今後の財政運営において、自主財源の確保は重要な課題であると考えるが、自主財源の確保について、本町の取組状況は。



答弁 自主財源の確保への取組は、重要な課題であると認識している。第5次播磨町総合計画にも、「持続可能な行財政運営を進めるまちづくり」を掲げ、積極的な自主財源の確保を行うことを基本目標の一つとしている。令和4年10月に債権管理課を立ち上げ、町税をはじめ、公債権や私債権に関して、滞納整理の強化に努め、成果が見え始めている。また、令和6年8月から、全国ふるさと納税ポータルサイトへ出品し、ふるさと納税の推進を図っている。財政の健全化を判断する指標は、令和5年度決算においても健全な状況にあるが、今後も引き続き、町税などの収納率の向上、使用料・手数料などの適正化に加え、新たな自主財源の確保など、全庁的な取り組みを進めることで、持続可能な自治体として次世代へつなぐことができる行政を目指していく。

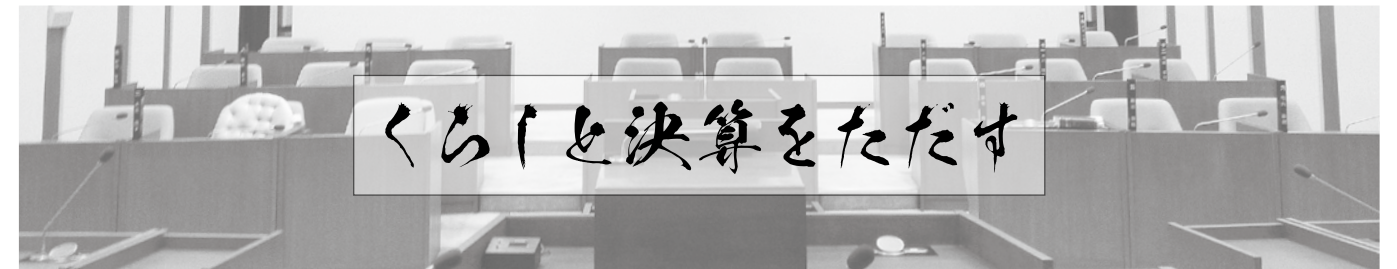
監査委員の視点

役割 監査委員が行う監査、検査、審査その他の行為は、播磨町の事務の管理や執行などについて、法令に適合し正確で、経済的、効率的かつ効果的な実施を確保し、住民の福祉の増進に資することが目的です。



意見 【組織機構改革】令和4年10月1日に実施し、グループ制から部制へ移行した。関連する業務を統合し、効率的に業務を執行することで、一体的な住民サービスの提供を行うことを主眼に置いた大改革であった。組織機構改革により各担当課で効率的に業務が執行できるようになったことで、住民ニーズに即した対応が可能となったことを大いに評価する。【備品管理】備品は所管課において管理されている。台帳へ記載は遅滞なく行われているが、現品確認検査が定期的実施されていない課が散見された。備品は町民財産であるということを常日頃から意識し、各課で現品確認の実施時期を決定して、定期的に備品の現品確認検査を実施されたい。

令和5年度決算については、決算特別委員会を設置して、9月13・17・18日の3日間で各会計の歳入歳出決算事項別明細書などに基づき審査を行い、一般・特別会計の決算を認定しました。水道・下水道事業会計については、決算を認定し、利益の処分を可決しました。（質疑は6～7ページに掲載）



くらゐと決算をたどる

令和5年度の一般会計と特別会計の合計決算額は、歳入が前年度より4.0%減の215億2823万円、歳出が3.8%減の194億3681万円です。

一般会計の歳入は前年度より7.6%減の130億7333万円となっています。主な要因は、町税などは増加したが、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金を実施した令和4年度と比べて国庫支出金が減少したことや、西小学校大規模改造事業債が減少したことによるものです。

一般会計の歳出は前年度より6.9%減の124億939万円となっており、主な要因は、新型コロナワクチン接種事業などの衛生費が減少したためです。

財政力指数（1に近いほど財源に余裕があるとされます）は前年度より0.024ポイント減の0.813（過去3か年平均）です。

経常収支比率（人件費や公債費など経常的な支出に対する、町税などの経常的な収入の割合を示し比率が高いほど財政の硬直化が進んでいます）は前年度より0.6ポイント増の93.9%です。

令和5年度の一般会計の町債発行額は前年度より66.3%減の3億2856万円で、令和5年度末残高は前年度より5.4%減少し110億5441万円となっています。

基金は、一般会計と特別会計で17基金を設けており、令和5年度末残高は80億6137万円で前年度より1.1%増加しています。主なものは、財政調整基金の39億3168万円、公共施設整備基金の10億8152万円、国民健康保険事業財政調整基金10億3718万円です。

決算審議（審査）の流れ

9月3日
本会議で審議開始
→提案説明・質疑
→決算特別委員会を設置

9月13日
17日
18日
決算特別委員会で審査開始
→所管課別 補足説明・質疑
→討論・採決

9月20日
本会議で審議
→委員長報告
→会計ごとに討論・採決



土山駅からまちを望む